キャラクター名
九重　奏（ここのえ　かなで）

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル サラマンダー	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル	オルクス	年齢	17	性別	男性
覚醒	素体	衝動	破壊	初期侵食率	32 %
出自	天涯孤独	経験	大きな転機	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1	1	調達		
運転：			芸術：音楽	6		知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
レーヴァテイン（①+②）	白兵	5r+4	6	20		浸食値５
レーヴァテイン（①+②）	白兵	5r+4	6	24		浸食値５
（③）		0				浸食値１、飛行状態で、[8+2]m移動
（③）		0				浸食値１、飛行状態で、[8+4]m移動

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
カジュアル	
携帯電話	
制服	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
業師	P	N		
理解者	P 幸福感	N 不安		
霧谷雄吾	P 信頼	N 食傷		
一華エリカ	P 好意	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
異形の守り	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：暴走以外のＢＳを一つ回復								
オーバーロード	1	3+2	オート	至近	自身	自動	80↑	
効果：攻撃力＋[使用中の武器の攻撃力]								
氷炎の剣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：武器欄上の武器を作成								
地獄の氷炎	4	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果：上記の武器の攻撃力＋[ＬＶ×３]								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：移動距離＋[ＬＶ×２]mで飛行								
貪欲なる拳	2	3	メジャー	武器	-	〈白兵〉	-	
効果：白兵攻撃ダイス＋[ＬＶ＋１]個								
コンセントレイト：エグザイル	3	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：Ｃ値－ＬＶ（下限値７）								
壁に耳あり	1	1	メジャー	-	-	〈情報：〉	-	
効果：判定ダイス＋[ＬＶ＋１]								
不可視の領域	★	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果：場所を隠蔽								
シークレットトーク	★	-	オート	視界	単体	自動	-	
効果：オーヴァード専用回線								
効果：								
効果：								
効果：								

レネゲイドウィルスによるオーヴァードまたはジャームへの覚醒、変貌の臨海点の測定実験の実験体として生まれて間もない頃にＦＨに攫われ、実験によって人工的に覚醒させられたオーヴァード。

覚醒の際に力が暴走して、ＦＨの研究所を燃やし尽くした。焼け跡で一人泣いていた所を霧谷雄吾に保護され、ＵＧＮチルドレンとして育てられた。

実の両親は攫われた際にＦＨエージェントに殺されていたが、攫われたのが赤子の頃であったので両親についての記憶がなく、そこまで悲しくはなかった。

一華エリカとの関係は家が近所で、また年も同じということもあり、一緒に遊ぶようになったのがきっかけ。

一華エリカに誘われる形で音楽を始めるが、病気の発症と共に止め、現在はＵＧＮチルドレンとして任務をこなす傍ら、病気の治療法について調べている。

性格は温和で大人しい常識人。霧谷さんに助けてもらった命だから、今度は誰かを助けるために使いたいと思っている。

戦闘時には炎の剣を生成し、氷の道を作って接敵し斬りつけるといった方法を取る。敵を斬った時に散る火花が、まるで黄金に咲く花のようであった事から、金蓮花（ナスタチウム）と呼ばれるようになった。